

ボランティア活動グループ訪問記



自主夜間中学「さがみはらえんぴつの会」
〜学びたい人が
学びたいペースで学べる場を〜



今年(戦後80年)その戦後の混乱の中で義務教育の学習の機会を失った子どもや青少年のために夜間中学が始まった。夜間中学はもつ昔のものと思ってい

る方が多いのではないだろうか。ところが、校数の増減はあったものの現在全国で公立の夜間中学は53校、25年度以降もまだ開校の予定があり増加しているとのこと。相模原には市立大野南中学校分校・夜間学級(以下 相模原市立夜間中学)が2年余りの準備期間を経て2022年4月に開校した。



角田憲司さんと吉田恵一さん(右)

取材の日は授業の2時間前から、ほぼ通10月言の「オジヤマシムス」で取材させていただいた「ふちのべ学習教室」の角田憲司さん、えんぴつの会で指導に当たっている鈴木春子さんと吉田さん3人で、県内の夜間中学の様子や広めるため

のイベント開催の情報 相模原市立夜間中学の授業見学の報告など熱のこもった会議が続いていた。

＊今、夜間中学が増えている背景は何が？

戦後まもなくは貧困や労働で昼間に中学に通えない人たち、戦後国交が回復した韓国・中国からの帰国者80年代から不登校者が主な生徒だったが、90年代以降は外国からの労働者とその家族が増えた。日本は移民に優しい国ではないが、世界の中では治安のよい安全な国である。



現在も人口に占める外国人の割合は増えつつある。学習を希望する人は年齢国籍によらず能力に応じた教育の確保を謳う「教育機会確保法」の2016年施行もあり、日本で暮らすための語学や知識の習得の場として夜間中学が必要とされている。

＊「えんぴつの会」は県内5か所 民間の自主夜間中学と連携推進中

相模原市立夜間中学は指導要領に基づいて行われ、毎日通学する等の制約もある。4月から入学できない、生活に必要な日本語を習いたい、毎日通えないなど生徒側にもいろいろな事情がある。相模原えんぴつの会では現在、学習者一人一人のボランティアが支援している。得意科目を増やす、高校への入学を目標などそれぞれの目標に応える場にした。卒業証書が出なくても、集団で埋もれない学習の場があることをもって広めたい。

＊具体的にどのような生徒がいらっしょうか？

韓国や中国などアジア、南米など外国につながる生徒が多い。国際交流フロンツの学習教室では対象とさ

れない日本人の子どもも来ている。年齢の幅も広く過去には中3でもう一度中学の学習を学び直したいという子、自分史を書きたいという70代の方などもいた。公立夜間中学に通い前日本語をもっと身に付けたいという目標の生徒もいる。

この日の授業後、生徒さんに生の声を聞かせていただいた。

＊Tさん(14歳)「毎週末のがとも楽しみ」先生が中学の先輩でもあり、話しやすい。趣味の話などをして、昼間の学校で張りつめた気持ちを切り替えている。「それで学習のスタートが切れる」「高校入試を目指している」。

＊Sさん(高校1年)「韓国から留学で来ている」「日本語と数学を主に学習している。数学の文章題では解答に必要な要素を読み取るのが難しいので」「ここなら必要なことを身に付けられるとお母さんが探してくれて」

お一人ともあいさつや話し方がとてもしつかりとっている。目力があって印象だ。

吉田さんは「外国人の人権を守りたい」と繰り返しいらした。また、指導する側のボランティアの中には高校生の方もいるのだ。

今回は自分の認識不足を痛

感じたが、「ここには生き方を学ぶ場がある」と思いつつ教室をあてにした。

(恒藤・杉崎)

「さがみはらえんぴつの会」

〒252-0233 相模原市中央区鹿沼台 1-9-15

プロミティふちのペビル1F

さがみはら国際交流ラウンジ

☎ : 042-750-4150

代表 吉田 恵一

